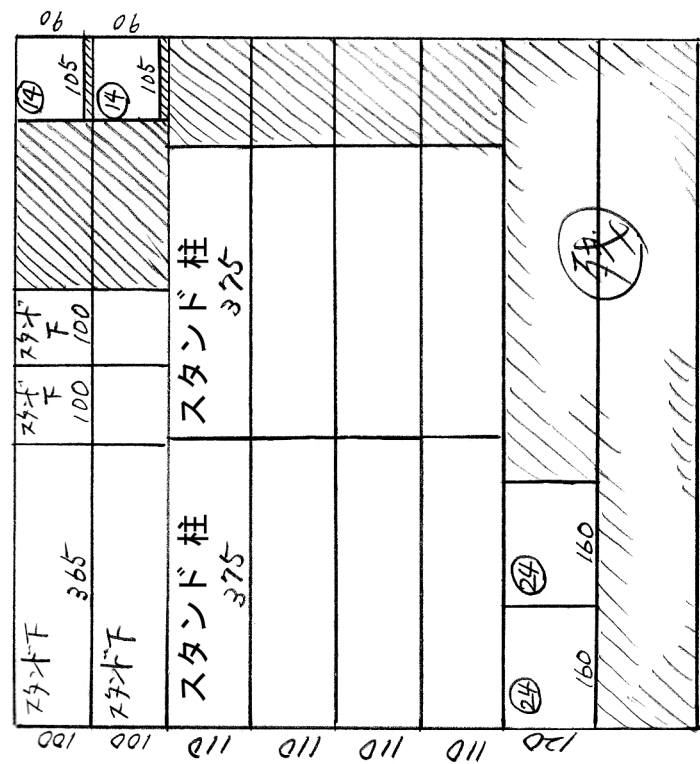


15mm厚
合板



部材リスト

310 X 565	穴加工 X 2	25
310 X 565	X 2	26
310 X 215	X 4	27
310 X 120	X 2	28
535 X 280	穴加工 X 2	29
535 X 215	X 4	30
120 X 420	X 2	31
120 X 350	X 2	32
120 X 120	X 2	33
120 X 160	X 2	34
90 X 230	X 2	35
90 X 105	X 2	36
80 X 237	X 2	37
80 X 225	X 2	38
80 X 210	X 2	39
80 X 190	X 4	40
80 X 160	X 4	41
80 X 110	X 2	42
80 X 71	X 8	43

(以下スペースパー)

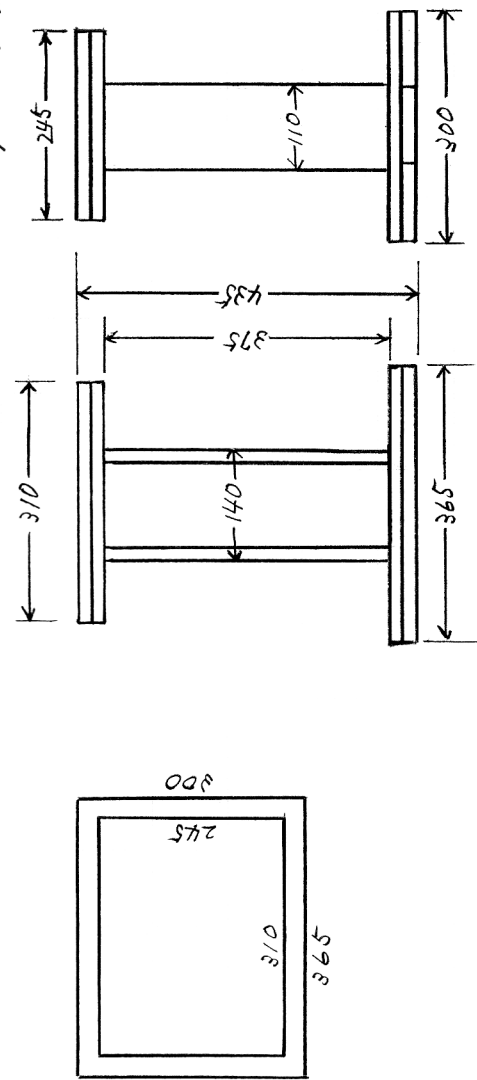
(スタンド部材)

365 X 300 X 2
365 X 100 X 4
100 X 100 X 4
310 X 245 X 4
110 X 375 X 8

組み立て式

$$\begin{aligned}
 & ① + \{② + (③ + ④ + ⑤ + ⑥)\} + ⑦ + ⑧ + ⑨ + (⑩ + ⑪ + ⑫ + ⑬) \\
 & + \{(⑭ + ⑮) + ⑯ + (⑰ + ⑱)\} + ⑳ + ㉑ + ㉒ + ㉓ + ㉔ \\
 & + \text{三角材} + ㉕ + ㉖
 \end{aligned}$$

専用スタンド図



※ D-99 ES-R ver. II 設計の意図

● コリスミ無線さん等の話により FE88 ES-R を 10cm に近い性能と考へ設計したが、低音部に踵打ちの感覚が”ある”ので……。

- 1) 空気室の縮小 1672 cm³ → 1408 cm³ (この量の縮小がブローアップ投入など……)
FE88 ES の D-99 で 1200 cm³ であるので、低音の引き締めをねらい 8cm のバランズに近づけた。(FE108 ES II のスーパーステンで 1900 cm³)
- 2) スロートの絞り込み
試聴によりシメを行い 45mm → 40mm → 39mm と鼓子ユニットのコーン紙の低音時のバタつきに配慮した。
- 3) 全体の再設計 スロート変更にとめない Fc 28Hz を Fc 24Hz に変更し再設計 (音速の変化は少ない)
- 4) 開口部は正方形を確保
- 5) スタンドを板取りに入れ 2.5 枚 (3 X 6 分板) の経済設計。